



斜めの吹抜けを媒介に溶け合う、美術館と図書館と銀行



街なかの人の流れを建物内に引き込み、上階まで導く、県産杉の内装ルーバー



時と共に移り変わる、影と反射によるザラザラとした外壁



TOYAMAキラリ

選評

TOYAMAキラリは富山市の中心市街地の一角、西町交差点に面した地区の市街地再開発事業として計画された。市民にとってなじみ深い街中の一角で古くから交通の要衝であり、市によるLR T（次世代型路面電車システム）の整備構想によれば今後、交通の結節点として再生する場所である。中心市街地の空洞化が進み、郊外化が進んでいる地方都市にあって、富山市は公共交通の整備を軸にコンパクトな街づくりを進めている。中心部を新しいモダンなLR Tが走り再開発が進んでいる。こうした街づくり構想の一貫として、近

傍にあった銀行本店、城址公園内にあった老朽化した図書館、新たなガラス美術館が一体となった建築として企画された。通常は郊外に駐車場とともに整備されがちな公共施設をあえて中心市街地に駐車場を設けずに集約して整備した。通りに面した外観デザインは、設計者によれば立山の岩氷をイメージとするもので、ガラス、アルミ、銀行本店で使われた御影石が断片化され、旧大和百貨店の縦パターンのイメージを踏襲しながら、内部の機能に応じた開口率によってそれらを散りばめたもので、印象的なものとなっている。

大通りを歩きながら街が連続するようにアプローチすると、斜めの吹き抜け空間に面して図書館に美術館の展示室を混ぜ合わせたような施設構成が六階までつながっていて、最上部のガラス屋根からは自然の光が降りそそぎ、開放的な印象である。再開発ビルにありがちなエントランスホールと水平の床が重なるテナントビルではなく、建物全体が立体的な空間によ

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2017年で58回を数えます。

< 2017年 第58回 BCS賞受賞作品 > 静岡県草薙総合運動場体育館(このはアリーナ) 新宿東宝ビル 太子町新庁舎「太子の環」人がつどう・まちをめぐる・太子がつながる 竹中工道具館新館 敦賀駅交流施設「オルパーク」 駅前広場キャンピー TSURUMIこどもホスピス 東京駅八重洲口開発: グランルーフ、グラントウキョウノースタワー、グラントウキョウサウスタワー、駅前広場 TOTOミュージアム 桐朋学園大学調布キャンパス1号館 としまエコミュニセタウン TOYAMAキラリ 虎ノ門ヒルズ(環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業Ⅲ街区) 直島ホール MIZKAN MUSEUM YKK80ビル [特別賞]日本橋ダイヤビルディング [江戸橋倉庫ビル]の保存・再生 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館

建築主 より 現代ガラス芸術が持つ魅力をもっと世界に発信する美術館

ガラス美術館は、これまで富山市が30年以上にわたり取り組んできた「ガラスの街とやま」の集大成として、平成27年8月にTOYAMAキラリ内に開館しました。

開館から3年が経過し、国内はもとより、海外からも多くの方々が訪れており、市の中心部に位置することもあり、現代ガラスを中心としたガラス芸術の発信拠点としての役割だけでなく、併設された図書館とともに、まちなかの新

たな魅力の創出も期待されています。

設計は世界的建築家である隈研吾氏を擁する共同体が担当し、ガラス作品のような透明感のある輝きを織り交ぜた外観と、富山県産材のルーバーを活用したぬくもりのある開放的な内部空間を併せ持ち、まさにガラス芸術が持つ魅力を発信するに相応しい施設となっています。

今後とも、本賞の名に恥じぬよう、国内外から末永く親しまれる美術館運営に努めてまいります。



富山市ガラス美術館館長
渋谷良治
Ryoji Shibuya

設計者 より

ストリートと繋がる「街のような建築」



株式会社アール・アイ・エー 東京支社 統括部長(現職)
RIA・隈研吾・三四五設計監理共同体 設計統括(当時)
村山寛
Hiroshi Murayama

敷地は昭和初期に開業した百貨店が市民に長年愛され、銀座における服部時計店のような富山の特別な場所でした。外観デザインは、従前百貨店ファサードの端整な縦ストライプを継承することで、従来の都市景観を残しつつ、立山の氷の岩脈のような、またはガラス作品のような、透明感のある輝きを織り交ぜた、新しい富山のシンボルを意図しています。内部はエントランスからキラキラ光る天窓まで突き抜ける

「斜めの吹抜け空間」を中心に図書館、美術館を混ざり合うように配置しました。複合用途の相乗効果によって人と人、人と芸術・文化・情報が交わり、刺激し合う生(ナマ)の場所、そしてコンパクトシティの先駆けである富山市のウォークアブルなストリートと繋がる「街のような建築」になりました。この場所がまた富山市民にとって長く愛される場所になることを願っています。

施工者 より 「にぎわいの創出の場」として

富山市の西町に「にぎわいの創出を」という想いを、再開発組合、富山市図書館・ガラス美術館をはじめとする、TOYAMAキラリの建設に関わった皆様と、力を合わせ実現することができました。施工者として、その「にぎわいの創出」にふさわしい建物を造り上げることが責務でした。

富山県産材の杉をふんだんに使用した特徴的な吹抜、立山連峰を連想させる外装PCCWは、

モックアップを幾度も建築主・設計の皆様と繰り返し検証することによって、形にすることができました。富山の中心地にふさわしい建物を造ることができたと、自負しております。

協力会社の技術力・創意工夫なくして、今回のBCS賞の受賞はあり得ませんでした。本プロジェクトに従事していただいた方々に感謝し、受賞の喜びを共有したいと思います。



清水建設株式会社 名古屋支店 建築部 工事長(現職) 現場代理人(当時)
大塚克史
Katsuhito Otsuka



本を持って自由に移動できる、境界のない図書館

って一体化され、さまざまな人びとの活動がいきいきと感じられる。斜めの吹き抜け空間にあるエスカレーターが動線の中心で、楽しく眺めながら移動することができる。吹き抜け回りや天井面には不燃加工された木板が斜めにさまざまな角度でまばらに取り付けられ、本棚などといま一つ特徴あるインテリア空間をつくり出している。視覚的にも音響的にも吹き抜けの適度な賑やかさ、建設途上のような活気ある空気感が演出されている。木材は、まばらに天井の下地や躯体のフレームが見えるように取り付けられていて、公共施設でありながら仮設的な軽快なイメージ



図書館や美術館と繋がった、境界のないカフェ

富山の新たな街づくりを象徴するシンボリックな建築として、再開発事業としての事業企画、現代的な新たな価値を加えた設計、綿密に計画され精度の高い施工、三者が一体となって実現した建築で、中心市街地の活性化への新しい方向性を感じさせる建築である。

【選考委員】
木下庸子・堀場 弘・山本朋生

ジをつくり出し、それが市民にも受け入れられている。美術館と図書館の一体化や新たなイメージなど、つくり込みすぎでない、あの意味倉庫のような現代的な公共空間のありかたを感じることができ



「まちっばい」建築を生かす、地域のイベント

計画概要

建築主: 西町南地区市街地再開発組合 (富山市ガラス美術館・富山市立図書館本館・株)富山第一銀行)

設計者: (株)アール・アイ・エー (株)隈研吾建築都市設計事務所 (株)三四五建築研究所

施工者: 清水建設(株) 佐藤工業(株)

所在地: 富山県富山市西町5-1
竣工日: 2015年4月30日

敷地面積: 4,144㎡
建築面積: 3,422㎡
延床面積: 26,792㎡

階数: 地上10階、地下1階
構造: 鉄骨造